

第12回 積丹ソーラン 味覚祭り



積丹町の初夏の一大イベント、第12回「積丹ソーラン味覚祭り」が6月25日、美国漁港広場で開催され、町内外から訪れた約1万1千人が積丹町自慢の食やステージを楽しみました。

今年はまだこれまでにない、あいくの悪天候の中、積丹自慢の鮮魚や加工品に、例年どおりの長い行列ができ、即完売となった恒例の浜鍋、姉妹都市高知県香美市からの鰹のたたきや香り高いゆず製品などが販売され、積丹町の「食」に来場者は思わず顔をほころばせていました。

一方、ステージでは、YOSAKOIソーラン祭りで大賞を受賞した「平岸天神」や、毎年イベントのスタップとしても応援していた「北海道大学縁」による迫力の演舞や、プロ歌手はかまた雪絵さんによる歌謡ショー、町の伝統芸能「正調鯉場音頭」などが来場者の注目を集めたほか、美国中学校吹奏楽部による演奏には大きな声援が飛んでいました。また、恒例の「豊漁豊作餅まき」や「ウニ剥きコンテスト」、「町内カラオケ歌うま自慢」などのプログラムが会場を沸かせました。

最後には打ち上げ花火が夜空を鮮やかに彩り、伝統の初夏の祭典に終わりを告げました。



美国漁港では「水辺の安全教室」

イベント会場に隣接する美国漁港では、B & G財団や各海洋センターインストラクターなどの協力で『体験から学ぶ「水辺の安全教室」』が催され、ペットボトルを使った救助体験講座やダミー人形を使用した心肺蘇生法、ライフセーバーによる救助の実演などが行われ、参加者は水難事故への対処法を学びました。



▲ダミー人形を使った心肺蘇生法

平成29年 例大祭

今年も町内各地区で伝統ある例大祭が開催され、やっこ行列や神輿、山車など伝統のお祭りを地域住民やこの日のために帰省した人たち、更に美国神社祭典には、札幌大谷大学の学生がボランティアとして特別に参加して盛り上げました。

強い初夏の陽射しが降り注ぐ中、威勢の良い掛け声や歓声が飛び交っていました。

※野塚・日司・幌武意地区は神輿渡御がありませんでした。



神威神社



入舸稲荷神社



美国神社



イカ漁が豊漁 美国漁港に外来船 30 隻

“浜”・“街”に活気！

町の主要魚種の一つであるイカが、10数年ぶりの豊漁となり、7月7日には、最大30隻もの外来船が美国漁港に寄港し、また水揚量も昨年と比べ大きく上回るなど賑わいを見せています。

外来船の寄港により、イカ漁に必要な氷や発砲などの漁業資材や、船の中で生活するための食料などが漁港や町内の商店で賄われるため、外来船が町に与える経済効果は大きなものとなっています。東しゃこたん漁業協同組合美国支所の木村洋幸支所長も、「漁港はもちろん、飲食店にも乗組員がたくさん訪れ、町全体が賑わっていて嬉しい。」と、外来船の寄港で賑わう浜や街の様子に喜んでいました。

しかし、たくさんの外来船が陸揚げ・準備・休憩を行うため、港内の岸壁が不足する状況も見られ、乗組員からは、岸壁の不足や停泊中の漁船に電気を供給するための設備の必要性等の声が多く聞かれました。豊漁による港勢の向上が、漁港の老朽化や機能施設不足などの課題解決につながり、浜の主役である漁業者の快適な漁労環境が改善されることが期待されています。



自主的な地域への活動を支援

まちづくり活動支援事業補助金 活用事例 ⑤

H26・H27 漁業後継者育成支援事業

東しやこたん漁業協同組合 美国地区浅海部会

町では、一般寄付金やふるさと納税寄附金、(財)民間都市開発推進機構からの拠出金、国の過疎対策事業債などにより積み立てた基金をもとに「まちづくり活動支援補助金」で、町民の皆さんによる自主的な地域づくり活動を支援しています。

今回は、東しやこたん漁業協同組合 美国地区浅海部会が実施した「漁業後継者育成支援事業」を紹介します。

この事業の総事業費(2ヶ月) 109万9,440円のうち、101万円の補助金が活用され、4着のドライスーツの購入や潜水技術講習



▲漁港内の清掃活動

会、町内児童生徒を対象とした水産教室、美国漁港内の海中清掃活動が行われています。この事業で新たに整備された4着のドライスーツは現在、国の水産多面的機能発揮対策事業を活用した磯焼け対策として、食害生物であるウシの除去作業や北海道の日本海漁業



▲ウニの移植作業

緊急対策事業を活用した冬期間のウニの畜養試験、未利用資源のアサリ増殖試験などで有効に利用されています。

同浅海部会員であり漁協美国地区青年部長の菊地省吾さんは「浅海部会のウニの移植作業時や港内清掃、青年部会のウニの畜養作業にもドライスーツを使用しています。また、このスーツのおかげで寒い時期でも作業が出来るようになり、大変助かっています。今後もこのスーツを活用して、町の水産業の活性化のために様々なことに取り組んでいきたい。」と今後の抱負を話していました。

積丹観光協会会長 佐藤 勝次氏 日本観光振興協会 北海道観光振興機構 から表彰

公益社団法人日本観光振興協会が実施する平成29年度観光事業功労者に積丹観光協会会長の佐藤勝次さん(63歳)が選ばれ、5月15日に札幌市内のホテルで表彰式が行われました。また佐藤会長は、公益社団法人北海道観光振興機構が実施する平成29年度観光振興功労者にも選ばれ、6月26日に表彰式が行

れました。佐藤会長は、昭和63年に同協会理事に就任。平成13年には会長に就任し、当町の観光振興策に取り組んできました。特に、町の通年観光化を目指し、平成13年から11年間「どこい積丹・冬の陣」を開催するなど、冬季の観光客誘致に尽力されました。

平成19年には、3大岬の神威岬・積丹岬・黄金岬で「募金」による自然環境の保護と保全を目的とした積丹町自然環境保全協議会を設立し、町の魅力を観光で訪れる方々に永続的に伝えるための様々な活動を展開しています。

佐藤会長の受賞をたたえ、今後のさらなるご活躍をご期待します。

